

1. 評価結果概要表

平成 21 年 3 月 10 日

【評価実施概要】

事業所番号	0171100381		
法人名	ちば設備工業 株式会社		
事業所名	グループホーム かつらぎ		
所在地	千歳市桂木3丁目1-2 (電話) 0123-22-6711		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年2月13日	評価確定日	平成21年3月10日

【情報提供票より】 (20年11月14日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年	3月	21日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	17人	常勤	8人, 非常勤	9人, 常勤換算 4.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1～2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円			
その他の経費(月額)	共営費 17,760円 ・ 暖房費 5,820円 (10月～3月)			
敷金	有 (円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,153 円			

(4) 利用者の概要 (2月8日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	6名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	2名		
年齢	平均 82.83歳	最低	76歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千歳病院 ・ パークあおき歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成18年に開設した当事業所は、千歳市郊外の閑静な住宅地に位置し、千歳川が流れ自然溢れる環境である。事業所はバリアフリーでリビングキッチンを中心にした回廊に共有空間と居室が繋がっている。利用者は居間の窓からの陽射しを受け四季折々に変化する自然の色合いを感じながらゆったりと暮らしている。今年度、全職員により介護に寄せる熱い思いと地域密着型サービスとしての事業所の役割を話し合い集約し理念を作り上げ、日々のチームケアの中で実践に向けて取り組んでいる。また、利用者にとってその人らしい暮らしを続けるために、得意分野を活かした役割を持ち、利用者の満足感に繋がる「生きることへの支援」が自然体で行なわれている事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題は6件有り、地域密着型サービスの理念策定は管理者と全職員が協働で取り組み、介護に寄せる思いと地域密着型としての事業所の役割について話し合い集約し作り上げ、日々のケアサービスの中で実践の取り組みが行われている。残る項目4件については検討・取り組み中で
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が評価の意義について再認識し、職員一人ひとりが全項目について自己評価を行ない、管理者が纏めている。気づきと見直しを課題として運営に活かす取り組みを行なっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	町内会役員・民生委員・行政担当職員に利用者・家族代表を構成メンバーとして隔月に開催している。利用者の状況を中心に事業所の現状や自己・外部評価の結果などについて報告し、意見交換を通して運営に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関には意見箱を設置し、関係書類には内外の苦情受け付け窓口と事業所としての苦情処理の手順を明示している。全職員一丸となり苦情の無いサービス提供に努めているが、苦情の申し出があった場合は対策会議を開催し再発防止に努めている。管理者は運営者に報告し法人の課題として対処している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、河川敷の清掃や資源ゴミ回収活動に参加し育成事業では子ども達との交流も図っている。事業所行事の「夏祭り」には幼稚園・福祉団体と共催し、地域住民の参加を得て双方向的な交流・関係が築かれている。また、家族や高齢者サポートを目的に相談活動を支援している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年度、全職員の介護に寄せる思いと地域密着型サービスとしての事業所の役割について話し合い集約し、基本理念である「支えあい・喜び合い・ふれあい・慈しみあい」に加え「地域の中で共に歩みます」とし、地域密着型サービスの役割りを目指す内容の理念を作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員は理念の本質を理解し、一日の始まりから利用者へのサービス提供の中で、理念の確認・実践を繰り返し取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、河川敷の清掃や資源ゴミ回収活動に参加し育成事業では子ども達との交流も図っている。事業所行事である「夏祭り」には幼稚園・福祉団体と共催し、地域住民の参加を得て双方向的な交流・関係が築かれている。また、地域の高齢者サポートを目的に相談活動を支援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義について再認識し、職員一人ひとりが全項目について自己評価を行ない管理者が纏めている。気づきと見直しを課題として運営に活かす取り組みを行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会役員・民生委員・行政担当職員と利用者・家族の代表を構成メンバーとし隔月開催している。利用者の状況を中心に事業所の状況や自己・外部評価の結果などについて報告し、意見交換を通して運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の地域密着型集団指導会議や地域包括会議などに出席すると共に、行政担当者への訪問・相談を通して事業所の特色を活かしたサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時や電話・手紙などで、利用者の近況報告を詳細に説明している。事業所の活動状況はお便りで知らせしているが、不定期発行に止まっている。	○	利用者の暮らしぶりの報告や行事案内など、きめ細やかな連絡を通して家族との接点をより確かなものにする為にも、定期的なお便り発行の実現に向けて取り組む事を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置し、関係書類には内外の苦情受け付け窓口と事業所としての苦情処理の手順を明示している。苦情の無いサービスを目指しているが、苦情の申し出があった場合は苦情会議を開催し再発防止に努めている。管理者は運営者に報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員の馴染みの関係を重視し、離職を最小限に抑えるために、管理者は職員との話し合いや、ミーティングを始め、親睦会などで意志疎通を深めている。やむを得ない離職には職員間で協力し、利用者への影響に配慮した対応を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員から研修参加の希望があった場合には、シフトを調整し研修を受ける機会を確保している。今日的課題については、ミーティング時に連絡・指導を行っている。	○	事業所として、職員の育成方針を明確にすると共に、方針に即して職員の段階に応じた学びの機会を計画的に確保する事が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所の夏祭り行事を中心に市内同業者に連絡し、交流機会の取り組みを行なっている。20年12月に市内の同業者による地域密着型サービスの質の向上を目的としたネットワークが立ち上がり、実践的交流・連携の場となるよう打合せを持つなど計画中である。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からの入居希望の利用者が多く、病院退院と事業所入所までの期間が短いために、サービス利用をいきなり開始する場合もあり、入居に向けて家族の協力を得ながら、本人が安心感を持っての新生活移行に努めている。	○	利用開始前に病院訪問や事業所見学を繰り返すなど、本人が職員やサービスの場に徐々に馴染みながら本格的な利用に移行できるように、システム作りと取り組みを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はケアサービスの根底になる理念を掘り下げ、具体的な実践の中で利用者と喜怒哀楽を共感し、お互い様と感謝の関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向は、利用者の心情に即した場所や状況を設定し把握に努めている。また、アセスメントや個人記録を始め吹き・表情などのサインも見逃さず、利用者の立場に立って検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを基に、全職員でモニタリング・ケアカンファレンスを実施し、作成した計画策は利用者・家族に説明し意向を取り入れ同意を得て、本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的な見直しは3ヶ月毎に行なっているが、全職員は利用者の心身の状態を共有し、変化が生じた場合は家族の意向を確認し、話し合いを基に状況に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、受診やリハビリー通院を始め冠婚葬祭や墓参りなど、自主サービスとして柔軟に対応し支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関をかかりつけ医とし、受診している。診療内容は、かかりつけ医・家族・事業所で情報を交換し共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、本人や家族と日常の健康管理や入院治療が必要になった場合など、急変時の対応について話し合いを行ない、かかりつけ医やソーシャルワーカーを含めて方針の統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の秘密保持については運営方針で規定し、ミーティングでプライバシーを損ねない対応について意識化を図っている。個人情報の使用については目的・条件など契約時に締結している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が、その日をどう過ごしたいかを推し量り、申し送りにより全勤務者で共有し、一人ひとりの希望やペースを大切に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話の中で把握した利用者の好みをメニューに取り入れるよう努めている。利用者の多くは食事作りの一連活動に加わり、利用者と職員は同じテーブルで談笑しながら一緒に食事を楽しんでいる。主食はパン・米飯・粥で対応し代替食の用意もされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の気分や状態により週2回は入浴支援をし、利用者の希望により見守りや同性介助を行なっている。また、入浴剤を月替えで使用し、色と香りを楽しみ季節が実感でき、癒される入浴支援を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の一人ひとりの得意分野を活かし、菜園・掃除・編物・調理などの役割を持ち、利用者の満足感に繋がる「生きることへの支援」を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の気分や希望に応じて散歩や屋外お茶会・外出行事などを行なっている。家族の協力も得ているが、希望に対応できない時は、日おき対応による支援を行っている。	○	短時間であっても、日常的に戸外に出る機会を進めると共に、外出行事や関係性の継続に繋がる利用者本位の外出支援の実施が望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者を始め全職員は鍵のないケアの大切さを認識し、日中は施錠やセンサーのない見守りによるケアの実践に取り組んでいる。不意の外出には近隣住民やSOSネットワークの協力体制が整備されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の指導の下で避難訓練を実施している。災害時用の連絡網を作成し、非難時に整えて利用者18名分の防寒具を設置している。	○	火災に限らず地震・水害・台風など地域で考えられる災害や昼夜・季節を想定するなど、諸条件を想定した総合的な災害訓練を消防署・警察署・地域住民との連携を図りながら実施する事を期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	札幌在住の栄養士による月2回の助言を基に1300～1600calを基本に栄養バランスのとれた食事を提供している。水分量は個人対応とし、何れの摂取量も全職員が共有し、一人ひとりに応じた量・形態・自助具支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニット共にバリアフリー設計で、リビングキッチンを中心にした回廊に浴室・トイレ・洗面台などの共用空間と居室が繋がっている。施設的な作りではあるが、音・採光・温湿度の管理も適切で、季節感のある置物・装飾を通して家庭的な雰囲気を出し、居心地よく過ごせる共用空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の電灯・暖房器以外は利用者の持ち込み用品である。利用者は使い慣れた馴染みの家具や調度品を持ち込み、写真・作品・趣味の装飾など、家族の協力を得ながら居心地よく過ごせる居室になっている。		

※  は、重点項目。